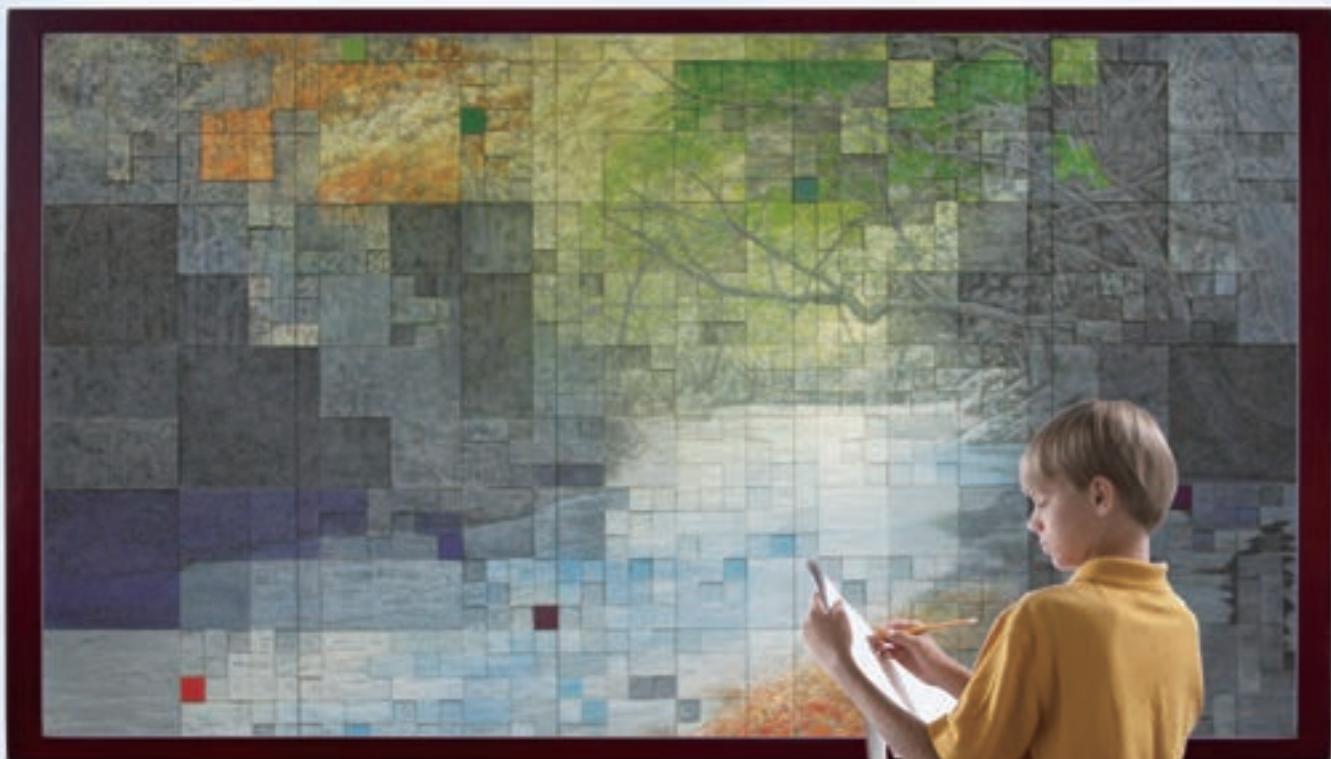


超精密とメカトロメーション®を追求する

**Seibu**

# 第80期 株主報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで



**西部電機株式会社**

## 株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成25年6月27日付で、取締役社長に就任いたしました宮地 敬四郎でございます。

株主の皆様には、前 木村社長同様、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当社グループの第80期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

平成25年6月

## 商品力と販売力の強化で 安定成長を目指します。



取締役社長 宮地敬四郎

### 当連結会計年度の事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要等を背景に持ち直しの気配がみられましたが、長期化する欧州の債務問題や円高、更には世界経済の減速等の懸念材料を抱え、先行き不透明な状況が続いておりました。しかしながら、年末に発足した新政権による経済政策への期待感から円安、株高基調となり、実質的な景気浮揚にはまだ至らぬものの、デフレ脱却と景気回復への期待が高まっております。

この様な情勢の中で、2010年度から2012年度までの中期経営計画「SAP12(Seibu Action Plan for 2012)」を策定し、当社グループは、「商品力の向上」ならびに「販売力の強化」によって安定成長を実現するよう邁進してまいりました。

その結果、当社グループの連結業績は、企業の国内設備投資計画の見直しや円高による輸出の低迷などの影響もありましたが、東日本大震災の復旧復興需要などもあり、受注高は169億1千9百万円(前期比 18.5%増)、売上高は159億9千6百万円(前期比 12.1%増)となりました。利益面では、コストダウンや経費削減等当社グループを挙げて注力いたしました結果、経常利益は11億5千7百万円(前期比 42.7%増)、当期純利益は6億5千7百万円(前期比 126.4%増)となりました。

### 対処すべき課題

次期のわが国経済は、大胆な金融緩和策や景気回復に向けた政策への期待はありますものの、欧州の金融不安の再燃や新興国経済の鈍化、近隣諸国との軋轢など懸念材料も多く、依然として先行き不安定な状況で推移するものと思われまます。

当社グループといたしましては、中期経営計画「SAP15」の初年度であり、どのような環境下にあっても、「商品力の向上」、「販売力の強化」によって、受注・売上を拡大し市場競争を勝ち抜く所存であります。

更にはコストダウンや経費削減に一層注力し、企業体質の強化と着実な安定成長の確保に努めてまいります。

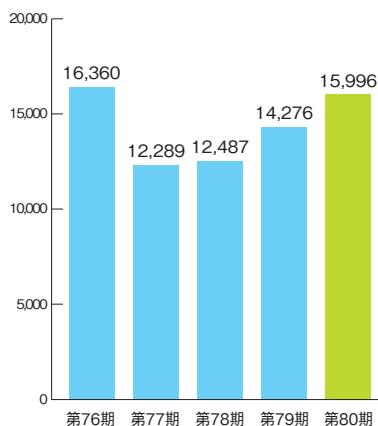
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 業績ハイライト

科目	第76期 平成20年度	第77期 平成21年度	第78期 平成22年度	第79期 平成23年度	第80期 平成24年度 (当連結会計年度)
売上高 (百万円)	16,360	12,289	12,487	14,276	15,996
経常利益 (百万円)	904	473	492	811	1,157
当期純利益 (百万円)	449	266	224	290	657
1株当たり当期純利益	31円92銭	18円96銭	15円98銭	20円56銭	43円41銭
総資産 (百万円)	24,286	22,931	22,982	24,798	27,087
純資産 (百万円)	13,652	14,708	14,292	15,014	15,855
1株当たり純資産額	971円27銭	1,046円65銭	1,017円23銭	990円71銭	1,046円54銭

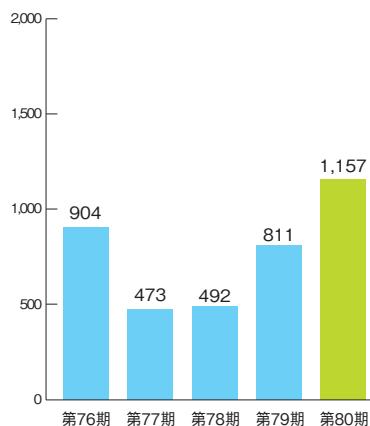
## 売上高

(単位:百万円)



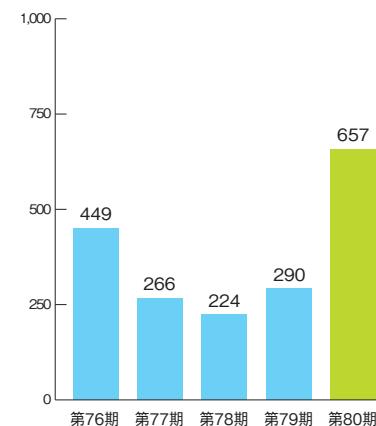
## 経常利益

(単位:百万円)



## 当期純利益

(単位:百万円)



# 主要な事業別営業の概況

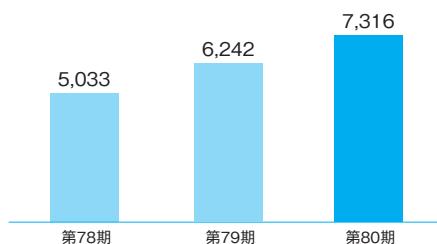
## 搬送機械事業

搬送機械事業では、既存顧客からのリピート受注、小型自動倉庫や製造業の生産・物流分野などに、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。

その結果、大手機械メーカーからの大口物件の成約や株式会社豊田自動織機との協業効果もあり、受注高は83億1千9百万円(前期比 34.7%増)、売上高は73億1千6百万円(前期比 17.2%増)となりました。

売上高

(百万円)



売上高

**7,316**百万円 前期比17.2%増

**45.7%**

ケースピッキングクレーン



スタッカークレーン



マルチソーティングRIO



### 主要商品

立体自動倉庫  
FAシステム  
ケース自動ピッキングシステム  
ピースピッキングシステム  
搬送・ハンドリングシステム

# 産業機械事業

売上高

(百万円)



産業機械事業の産機部門では、民間需要の掘り起こしや既存市場におけるシェアアップ、震災復興に係わるゲート市場への拡販やサービス・メンテナンスに注力してまいりました。

また、精密機械部門では、既存顧客の更新需要や海外の新規商社の開拓に注力するとともに、半導体やデジタル家電、光学、自動車市場などに拡販を図ってまいりました。

その結果、受注高は82億1千4百万円(前期比 7.6%増)、売上高は83億円(前期比 9.6%増)となりました。

51.9%

売上高

8,300百万円 前期比9.6%増

## 主要商品

産機部門

バルブアクチュエータ  
ゲート駆動装置

精密機械部門

超精密・高精度ワイヤ放電加工機  
高精度小形NC旋盤  
高精度自由形状研削加工機  
正面旋盤

バルブアクチュエータ・プラント



ハイエンドタイプ SuperMM50A



大型電動ピンラック式ゲート駆動装置



ハイスピードローダ連結ライン



# Topics & New Product

## 搬送機械事業

### 「マルチソーティングRIO」(リチウムイオンキャパシタ搭載)納入

「マルチソーティングRIO」は、保管機能、ピッキング機能、補充機能を有する新開発のインテグレートハイブリッド装置で、リチウムイオンキャパシタ(以下LCAP)を搭載し、そのエネルギーで動作する業界で初めての装置です。

主な特長は

- ①LCAPに充電ステーションで急速充電。コネクタで充電を行うので粉塵が発生しない。
- ②動作時に発生する回生電力をLCAPに蓄電して電力を再利用し、消費電力最大25%の省エネ。

今回、この特長を活かしてDC社殿へ1号機を納入しました。

今後のマテハン事業部の主力商品となるよう、顧客満足度を上げていきます。



## 産業機械事業 産機部門

### 旭川水道展(第46回水道資機材展示会)へ出展

今回行われた水道展には、99団体の企業が出展しており、震災などの危機管理対策、水源汚濁等の水質対策を考慮した製品やシステム、地球環境に配慮し、省資源・省エネルギーを志向した製品など、各企業の自信作が展示されました。

当社は携帯端末を利用した「Semflex®-A」などのモバイル通信デモシステムを構築し、展示発表いたしました。

来場者の中には「更に具体的な話を聞きたい」、「手動弁をインテリジェントアクチュエータで電動化を検討したい」など、引き合いのお話いただくことができ、今後の受注が大いに期待できます。



会期 2012年10月17日(水)~10月18日(木) 会場 旭川市 大雪アリーナ

### 震災復興・防災事業始まる

人口や資産、社会経済活動の中核機能などが集中している首都圏で、堤防が決壊すれば壊滅的な被害が発生します。このような災害を防止・軽減する対策の一環として、ゲート設備改修工事「LPM-30W」2セット、「LPM-40W」3セットを受注し納品いたしました。

宮城県でのゲート設備災害復旧工事では、「LCM-300WT」、「320WT360WT」、「150WT」、「LPM-15W」を受注し納品いたしました。

また、仙台市下水道震災復興推進計画に於いては、1,000台レベルのアクチュエータ新規載せ替え計画が実行開始されており大型受注の予定です。

今後も岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、多数の水門の復興計画に柔軟に対応し貢献していきます。



「LPM-40W」



綾瀬排水樋管ゲート設備

## 産業機械事業 産機部門

### 新日鐵住金株式会社 名古屋製鉄所殿

#### Semflex<sup>®</sup>-VP(132台)+PROFIBUSシステム納入運転開始

新日鐵住金株式会社 名古屋製鉄所殿コークス炉にて、ガス圧調整ダンパ(皿弁)にSemflex<sup>®</sup>-VP-2(64台)、コークス温度調整用冷却水圧力切替弁(3方弁)にSemflex<sup>®</sup>-VP-010(64台)、これらをフィールドバス(PROFIBUS)で監視制御するマスター制御盤(2面)を採用いただきました。

このシステムは、船で運ばれた石炭をコークス炉(64釜)に入れ、1,300℃で蒸し焼きにして燃焼効率の良いコークスを精製し、ベルトコンベアで製鉄溶鋳炉に運び込むプラントで、総工費600億円の大プロジェクトです。

今後、他事業への展開が期待できます。



## 産業機械事業 精密機械部門

### JIMTOF2012 第26回 日本国際工作機械見本市

精密機械部門は、『超精密の西部電機』を強くPRする為、日本国際工作機械見本市JIMTOF2012に出展いたしました。

新開発の油仕様・超精密ワイヤ放電加工機「M25LP」と、業界唯一の大形高精度ワイヤ放電加工機「MM75A」を出展し、世界最高技術のワイヤ自動結線のデモを行いました。

「M25LP」の洗練された新デザインと、初の試みの女性社員によるプレゼンテーションで、西部電機ブースへ多くのお客様に来場いただき、知名度アップとブランド力の構築に貢献できました。

会期 2012年11月1日(木)～11月6日(火)

会場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)



### 油仕様ワイヤ放電加工機「M25LP」

超硬金型の高精密・高品位加工に威力を発揮する油仕様ワイヤ放電加工機「M25LP」を開発しました。ピッチ加工精度±1μm、最良加工面粗さ0.2μmRzの超精密加工が実現できます。今後の需要増が見込まれるハイブリッド車のモーターコア金型を意識し、最大加工ストロークはX軸とY軸とも250mmで、最大径250mmの金型を加工できます。また、φ0.05ワイヤによる微細加工で狭ピッチコネクタやLED部品などにも対応し、加工領域がさらに拡大しました。



### 精密機械新工場が竣工しました

2012年12月25日 精密機械新工場が完成しました。今回の新工場は高付加価値商品を製造する環境として、精密恒温室の空調設備、床の耐震構造なども考慮しています。また、お客様用展示室や測定室、開発室などの設備も充実しています。ランニングコストを考えLED照明、ガスを利用した空調等省エネや節電にも考慮した最新工場です。生産台数も従来の2倍以上と生産性も向上し、今後の精密機械部門の飛躍が期待できます。



# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

単位：百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期末 平成25年3月31日	前期末 平成24年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	14,949	13,720
現金及び預金	5,498	5,442
受取手形及び売掛金	7,623	6,463
仕掛品	649	692
原材料及び貯蔵品	862	860
繰延税金資産	258	216
その他	71	46
貸倒引当金	△ 14	△ 2
固定資産	12,138	11,077
有形固定資産	8,988	8,314
建物及び構築物	3,490	2,777
機械装置及び運搬具	393	354
土地	5,006	5,060
その他	98	121
無形固定資産	16	18
投資その他の資産	3,133	2,744
投資有価証券	2,292	1,776
長期貸付金	29	29
繰延税金資産	346	472
投資不動産	19	19
その他	482	489
貸倒引当金	△ 38	△ 43
資産合計	27,087	24,798

科目	当期末 平成25年3月31日	前期末 平成24年3月31日
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,810	6,305
支払手形及び買掛金	5,228	4,105
短期借入金	620	620
未払費用	1,005	849
未払法人税等	488	420
役員賞与引当金	27	15
その他	439	294
固定負債	3,421	3,478
長期借入金	336	336
長期未払金	3	3
再評価に係る繰延税金負債	1,716	1,731
退職給付引当金	1,116	1,156
役員退職慰労引当金	196	181
その他	52	69
負債合計	11,232	9,783
<b>純資産の部</b>		
株主資本	11,970	11,401
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,616	2,616
利益剰余金	6,699	6,128
自己株式	△ 4	△ 2
その他の包括利益累計額	3,885	3,612
その他有価証券評価差額金	761	461
土地再評価差額金	3,124	3,150
純資産合計	15,855	15,014
負債純資産合計	27,087	24,798

## 連結損益計算書

単位：百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	15,996	14,276
売上原価	11,984	10,742
売上総利益	4,012	3,533
販売費及び一般管理費	2,922	2,775
営業利益	1,090	757
営業外収益	88	92
営業外費用	21	39
経常利益	1,157	811
特別利益	9	0
特別損失	62	57
税金等調整前当期純利益	1,104	754
法人税、住民税及び事業税	500	431
法人税等調整額	△ 54	31
少数株主損益調整前当期純利益	657	290
当期純利益	657	290

## 連結包括利益計算書

単位：百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益	657	290
その他の包括利益	299	133
包括利益	956	423

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	983	1,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 797	△ 138
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 130	287
現金及び現金同等物の増減額	55	1,721
現金及び現金同等物の期首残高	5,312	3,591
現金及び現金同等物の期末残高	5,368	5,312

## 連結株主資本等変動計算書

単位：百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期	株主資本					その他の包括利益 累計額合計	純資産合計	
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			株主資本合計
当期首残高		2,658	2,616	6,128	△ 2	11,401	3,612	15,014
当期変動額								
剰余金の配当				△ 113		△ 113		△ 113
当期純利益				657		657		657
自己株式の取得					△ 2	△ 2		△ 2
土地再評価差額金の取崩				26		26		26
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							272	272
当期変動額合計		—	—	570	△ 2	568	272	841
当期末残高		2,658	2,616	6,699	△ 4	11,970	3,885	15,855

# 単体財務諸表(要約)

## 貸借対照表

単位:百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	当期末	前期末
	平成25年3月31日	平成24年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	14,215	13,013
固定資産	12,199	11,131
有形固定資産	9,049	8,361
無形固定資産	14	16
投資その他の資産	3,135	2,754
資産合計	26,414	24,145
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,650	6,130
固定負債	3,383	3,442
負債合計	11,033	9,572
<b>純資産の部</b>		
株主資本	11,498	10,963
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,616	2,616
利益剰余金	6,227	5,690
自己株式	△ 4	△ 2
評価・換算差額等	3,882	3,609
純資産合計	15,380	14,573
負債純資産合計	26,414	24,145

## 損益計算書

単位:百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	当期	前期
	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
売上高	15,298	13,539
売上原価	11,571	10,252
売上総利益	3,727	3,286
販売費及び一般管理費	2,695	2,578
営業利益	1,031	707
営業外収益	87	92
営業外費用	21	39
経常利益	1,097	760
特別利益	9	0
特別損失	67	57
税引前当期純利益	1,039	703
法人税、住民税及び事業税	464	402
法人税等調整額	△ 48	31
当期純利益	623	269

## 株主資本等変動計算書

単位:百万円  
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	2,658	2,616	5,690	△ 2	10,963	3,609	14,573
当期変動額							
剰余金の配当			△ 113		△ 113		△ 113
当期純利益			623		623		623
自己株式の取得				△ 2	△ 2		△ 2
別途積立金への積立			—		—		—
圧縮記帳積立金の取崩			—		—		—
土地再評価差額金の取崩			26		26		26
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						272	272
当期変動額合計	—	—	536	△ 2	534	272	807
当期末残高	2,658	2,616	6,227	△ 4	11,498	3,882	15,380

# 会社の概況・株式の状況

(平成25年3月31日現在)

## 会社の概況

商号	西部電機株式会社
英訳名	Seibu Electric & Machinery Co.,Ltd.
本店所在地	福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
設立	昭和14年2月1日
資本金	26億5,840万円
従業員数	392名(連結435名)

## 役員

(平成25年6月27日現在)

取締役会長 (代表取締役)	吉住一成
取締役社長 (代表取締役)	宮地敬四郎
専務取締役	藤岡敬正
常務取締役	税所幸一
取締役	木村 馥
取締役	木谷泰博
取締役	中里晋也
取締役	溝田安彦
常勤監査役	大串秀文
監査役	小西正純
監査役	吉田一昭

(注)監査役小西正純、吉田一昭の両氏は社外監査役であります。

## 株式の状況

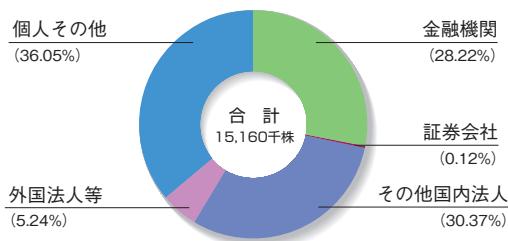
発行可能株式総数	32,980,000株
発行済株式の総数	15,160,000株
株主数	1,426名

## 大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社安川電機	2,630千株	17.35%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,340千株	8.84%
株式会社豊田自動織機	1,106千株	7.30%
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	779千株	5.14%
株式会社三菱東京UFJ銀行	650千株	4.29%
株式会社福岡銀行	633千株	4.17%
みずほ信託銀行株式会社	626千株	4.13%
株式会社西日本シティ銀行	589千株	3.88%
西部電機従業員持株会	416千株	2.75%
村上博	215千株	1.41%

- (注) 1. 持株比率は自己株式(9,472株)を控除して計算しております。  
2. シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社から平成24年12月17日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成24年12月10日現在同社が2,040,000株(保有割合13.46%)を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

## 所有者別分布状況



## ■株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**定時株主総会** 毎年6月

**単元株式数** 100株  
 \*当社は平成25年4月1日付けで、単元株式を1,000株から100株に変更しております。

**剰余金の配当** 毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。

**中間配当** 取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。

**公告方法** 電子公告により、当社ホームページ (<http://www.seibudenki.co.jp/>) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることのできない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

**基準日** 毎年3月31日  
 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。

### ホームページのご案内

<http://www.seibudenki.co.jp/>

または、



	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
<b>お問合せ先</b>		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く9：00～17：00）
<b>お取扱店</b>	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所、 プラネットブース（株式会社みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店
<b>ご注意</b>	支払明細発行については、右記の「特別口座の場合」のお問合せ先までご連絡ください。	「特別口座」では、単元株式の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。株券の電子化後に振替手続きを行っていない株主様は、上記のお問合せ先までご連絡ください。
	未払配当金のお支払については、みずほ信託銀行株式会社および株式会社みずほ銀行の本店および全国各支店にてお取扱いたします。（みずほ証券株式会社では取次のみとなります。）	

表紙の絵は、本社玄関フロアに展示されている陶版画で、奥入瀬渓流の四季をモチーフに『自然随順』を表現しております。

当社が「我々のロマン」として掲げるスローガン「我々は技術の本質を謙虚に探索し自然随順に即した応用で広く世界に貢献しよう」は、好不況にかかわらず、ロマンを胸に、機械文明と自然が共存し得るとの信念で謙虚さと誇りをもって商品を作り、広く世界に貢献することを宣誓しています。



この報告書は植物油インクを使用しております